

平成18年度実施 オープンスペースアンケート

オープンタイプの普通教室について 杉並第十小学校校長

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ○基本的には、壁のない教室として、ワークスペースまで教室として活用することができる。 ○ スライディング・ウォールを移動することにより、教室の広さを変えることができ、多様な学習形態を工夫することができる。 ○ 児童数に応じて教室の広さを調整することも可能である。 ○児童は、オープンの教室であることによって、授業への集中力が不足するという事は、それほど感じない。(かえって、となりの教室を意識しての教室マナーを育てることもできるのではないかと考えている。ポイントは指導にあたる教員の意識であると考え) ○一年生は一学期の学校適応期として、スライディング・ウォールによる壁を設置し、より学級ごとの指導に集中することができるようにした。二学期以降は他学年同様壁を取り外すことを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○軽度発達障害のある児童等にとっては、より集中を欠く原因にもなりかねない要素がある。 ○教室の掲示スペースが少ない。 ○児童用のロッカーが教室内に設置されていないため不便であると同時に、ワークスペースに大きな移動式ロッカーがあり、指導上邪魔になっている。 ○会議室や教育相談等に使用することができる教室がないため、児童の指導上や地域の会議に不便がある。 ○校長室に会議室が併設されているため、校長としての守秘を要する事務遂行に支障がある。 ○学年ごとに中央廊下の左右にスペースが別れるウイングタイプになっているため、保護者等は奥の教室の参観に対して遠慮がちになる。奥まで行って戻るといふことになり、巡回することができる動線がない。
使用上工夫している点	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年合同での学習活動や小集会に活用しやすく、教室移動の時間もかからない。 ○ 本校の場合は、2学年合同の活動も可能になっている。(ただし、現在の児童数の場合) ○ 学年ごとに図書コーナーをワークスペースに設置したり、教材を置いたりすることができている。しかし、それらの収納スペースは不足している。 	
その他自由意見・校舎改築にあたっての留意点等	
<ul style="list-style-type: none"> ○3階または2階から直に下に落ちてしまうような窓際に、児童が乗ることはできるような棚は、絶対に設置しないことが必要である。本校は設置個所多数。また、同様に直に下に落ちる危険性がある窓際に流しや物をおけるスペースを絶対に設置しないことも重要である。 ○校長室は、独立して設置するべきであろうし、校庭の活動が見える、あるいは来校者等もある程度把握することができる場所に設置することも重要であろう。(これらは危機管理の側面から) 	

平成18年度実施 オープンスペースアンケート

オープンタイプの普通教室について 杉並第四小学校校長

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ○ 開放感があり広々としている。密閉されていないためゆったりと過ごせる。 ○ オープンスペースを活用して学習形態をいろいろに変えることができる。 ○ 他学級の活動が見えるため情報を交換することができる。 ○ 教師同士が互いに指導法を学ぶ機会が多い。 ○ 子ども同士は顔見知りになり人間関係がつくられる。 ○ 学年内での歩調を合わせる事が容易になる。 ○ 管理職が校内を見て回る時に、学級の様子がよくわかり適切な指導・助言ができる。 ○ 教室部分と併用して使うことで、学習課題に対応した授業ができる。 ○ 多目的スペースに学習材を用意しておくことで、児童の活用の機会が増加する。 ○ 給食の配膳準備に使うことができ、安全性を確保できる。 ○ 児童がのびのびと使うことができ、心にゆとりが生まれる。 ○ 学年の児童全員が集合することができるため、教室の移動をしないで打合せ等ができる。 ○ 掲示物をパネルを活用して貼ることができるため、情報の伝達にパネルをうまく使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 暖房効果があがらない。 ○ 体育の着替えに困ることがある。 ○ 広々としているため、走り回りたくなる児童がみられる。 ○ 多目的スペースに自由に出入りができるので、学習材の管理に気を配る必要が生じる。 ○ 音楽の授業や音の出る授業については配慮する必要がある。
使用上工夫している点	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 移動黒板等を用いて、少人数学習のためのスペースとして活用。 ○ 区立図書館の団体貸し出し本や学級文庫等を設置し読書コーナーとして活用。 	
その他自由意見・校舎改築にあたっての留意点等	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校施設の開放にあたっては、開放できる施設と非開放施設との境界を作り、施錠等で遮断できるように施設面の工夫が必要である。 ○ カーペットはハウスダストの問題があるので、床材には木材（フローリング）を勧める。 ○ 窓や扉等の配置や設計にあたっては、室内の温度をより快適な状態にできるように、また、危険なため実際には窓を開けることができないといったことが無いよう、十分に検討して欲しい。 ○ 窓から離れた場所があるので、照明に十分な配慮が必要。 	

平成18年度実施 オープンスペースアンケート

オープンタイプの普通教室について 桃井第五小学校校長	
メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ○教員にとっては常に授業が観察されているという緊張感があり、手抜きができない。(教員からみればデメリットであるが?) ○保護者等いつでも授業参観ができる。 ○オープン部分を授業の中で有効活用できる。(作業など広く使える) ○学年合同学習など多人数での学習の場の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中の声が他教室に聞こえ、落ち着かない。 ○発達障害をもった児童には、雑音が多すぎ集中力に欠ける。
使用上工夫している点	
<ul style="list-style-type: none"> ○個別指導などオープンスペースを活用 ○図工作品などの展示 	
その他自由意見・校舎改築にあたっての留意点等	
<p>○発達障害の児童が増加している。デメリットにもあげたが、オープンスペースの形態は、専門家から見ても、彼らには良い環境とはいえないようです。特別支援に対応した教室等の確保が必要になってくるのではないのでしょうか。</p>	

平成18年度実施 オープンスペースアンケート

オープンタイプの普通教室について 永福南小学校校長

メリット	デメリット
<p>○学級の壁（仕切り）が移動できるので学習に合わせて広いスペースで使用できる。総合や生活科の学習発表の会場になったり、少人数指導の学習形態に合わせた多様な対応が可能になったりする。</p> <p>○壁が無く開放的なため、明るく広々としているため、参観者が多くても邪魔にならず、常時授業参観が可能である。校内巡視がしやすい。</p>	<p>○児童によっては、開放的なため落ち着かない者もいる。（発達障害の児童など）</p> <p>○慣れるまで隣室の音が聞こえてきて気になるが、慣れればそれほど気にならない。</p>
使用上工夫している点	
<p>○オープンスペースとは別に廊下が設定されていて、掲示や展示が可能のため、体育館を使わず、学校中を使用して、展覧会が行なえる。</p>	
その他自由意見・校舎改築にあたっての留意点等	
<p>個人の見解であるが、小学校は基本的にはオープンスペースの教室が望ましいと考えている。</p> <p>①、開放的で密室性が無い。</p> <p>②自由なスペースが確保できる。</p> <p>③集団感染率を下げる。</p>	

平成18年度実施 オープンスペースアンケート

オープンタイプの普通教室について 高井戸小学校校長

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ○ 広い空間が、心のゆとりや明るく開放的な意識を育てる。 ○ 学級の壁を超えた学習や学年集会などの諸活動が取り組みやすい。 ○ 各教科や特別活動、生活科、総合的な学習などで、多様な学習活動を工夫することができる。 ○ 生活空間と学習空間が、教室とオープンスペース一体の空間として、ゆとりあるものとして活用できる。 ○ 可動式の壁でいろいろな間仕切りをすることによって、個別指導や多様な小集団の学習をすることができる。 ○ 可動式間仕切りを活用し、掲示や展示を工夫することができる。 ○ 教師も子どもも保護者も、「学級王国」意識薄くなり、学年のまとまりがでてくる。 ○ 他学年の都合や後片付けのことを気にせず、学年保護者会や学年活動、作業活動などができる。 ○ 学校公開（授業参観）、校内巡視、授業観察などがし易い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の学級の声や音などが聞こえやすい。床や壁が木の場合は、音がよく反響する。→慣れると、意外と音は気にならなくなる。子どもたちも授業に集中できる。担任や子どもたちがむやみに大声を出さなくなる。 ○ 学年の音楽の授業や話し合い活動、動きを伴う活動などでは、他の学級のことを配慮してやらなければならない。
使用上工夫している点	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 書架や棚などを活用し、図書スペースや、教材などを置くスペースを確保している。 ○ 台形テーブルや椅子などを購入し、多様な活動に応じて移動したり並べたりしている。 	
その他自由意見・校舎改築にあたっての留意点等	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年オープンスペースに置く、テーブル、椅子、書架など、十分な数をそろえる必要がある。 ○ オープンスペースでは、多様な空間ができるような、可動式の壁（間仕切り）が必要である。 	